

< 3年生 >

3年1組

「六さいのおよめさん」



小児がんを発病し、6歳で亡くなるまで命を全うした女の子の夢はお嫁さんになること。父が始めた「命の授業」を通して、「命はなぜ大切にしなければならないのか」について考えました。

「命は何より大切。命はかけがえのないものだ。」という思いをもちました。

3年2組

「絵葉書と切手」



切手が料金不足だったことを友達に伝えるかどうかを迷うひろ子の姿を通して、「友達のために言うべきことをきちんと伝えることの大切さ」について考えました。

「言うべきことはきちんと行って、お互いに助け合える関係にしていきたい。」とい

3年3組

「ひきがえるとろば」



小石をぶつけられて傷付いたひきがえるをひかないように、力を振り絞って避けるろばの姿を通して、「命あるもの全ての大切さ」について考えました。

「どんなに小さな生き物でも、命の大事さは同じ。」という思いをもちました。

< 4年生 >

4年1組

「泣いた赤おに」



赤おにと青おにの互いに思い合う深い友情を通して、「よりよい友達関係をつくるために大切なこと」について考えました。

「友達を思うやさしい心で仲よくしていきたい。」「友達の願いをかなえられる人になりたい。」という思いをもちました。

4年2組

「わたしのいのち」



おじいちゃんの話から、自分はたくさんの人に支えられて生きてきたことを知り、「命の大切さ」について考えました。

「一度きりの人生を精一杯生きたい。」「周りの人に感謝して生きたい。」という思いをもちました。

4年3組

「温かい言葉」



親切な行為を断られても優しく受け止めるお兄さんと、それに応じる男の子の姿を外側から見ていた「ぼく」の気持ちを通して「温かい言葉」について考えました。

相手の気持ちを思いやっけて発した言葉は、「相手の心も自分の心も優しくする。」という思いをもちました。